

グループホーム「櫻」第26運営推進会議議事録

日時 平成25年1月29日(火) 14:00～15:00
場所 グループホーム「櫻」 1F 食堂
出席者 運営推進会議委員
逗子市介護保険課長 館 兼 好
(代理・須田係長)
葉桜自治会副支部長 松 下 元
社協：地域包括支援センター管理者 渡 邊 誓 子
(代理)
逗子市民生委員 枥 本 文 江
ご家族代表 今 井 真知子

「委員5名中 5名出席(内代理2名)」

医療法人社団柏信会 看護部長 岩 木 和 子
グループホーム「櫻」 管理者 菅 谷 弘 子
事務長 遠 藤 勝 三

会 議 概 要

1. 開会の辞

定刻、管理者は各委員に本日の出席を謝すと共に、法人理事長所用により欠席を伝え、議題に入る旨を伝え議事の進行、報告等を事務長に指示。事務長は会議次第に基づき資料及び口頭により報告説明を行う。

2. 議題

(I) 報告事項

ア 入居者の現況及び活動状況について(資料)

： 入居者の現況

昨年一時期において5部屋の空き室に厳しい運営を迫られました
が、現在は1部屋の空き室とやや回復するも今だに満室の状況には
至っておりません。現在入居申し込みは3件、ご家族は早期入所を
希望するも入居者本人が施設入所に強い抵抗を示しているために現
在説得中であるとのこと。よって待ちの状態であります。

今回は、入退居及び介護度の区分変更等により前回報告時よりか

なりの変動がありました。現況は資料のとおりで、2ユニットの合計数でご説明いたします。

男性が2名はそのままですが女性は1名増加の15名で17名の方が入所されております。

介護度は、要支援2が1名、要介護1は前回3名が0名、要介護2が1名減で3名、要介護3は1名増で8名、要介護4は1名増で3名、要介護5も1名増で2名となっております。

年齢では最高齢が97歳、最低年齢が79歳、平均年齢87.75歳とそれぞれ約1歳の加齢となっております。

： 活動状況

資料「さくら」により概要を説明。

各月のお誕生会を除いて9月は逗子海岸でのティータイムと敬老会を開催、参加ご家族との懇談会の開催、10月は恒例の室内合同運動会、11月は金色に輝く銀杏並木の南郷公園の散策、12月は恒例の合同クリスマスに冬至の柚子湯、年越しそばなど季節の催し物を楽しんで頂きました。

イ 医療連携体制について

昨年下半年から実施してまいりました医療連携体制事業の概要を、岩木看護部長から下記項目について、事務長に代わりご報告させていただきます。

： 事業の実施状況(現況)について

1週間に2～3回訪問、個人記録や介護従事者に現状を確認し直接声掛け等を行い症状との早期発見に努めている。

職員の機会教育として介護に不可欠な医療知識の普及、個々の症状に合致した適切な指導、感染症の予防に関わる具体的な指導等を行っている。症状は同じではない、どう変化したかの事例によって介護従事者も対応の仕方を学ぶべきで、それらの観点から指導している。

休祭日の対応としては、青木病院2階受付及びナースステーション(看護師リーダー)が対応するよう指示しており、当直医の往診も可能としている。

ただし、脳外科は当病院にはないのでご家族と相談して判断する。

： 利用者の重度化と今後における連携のあり方

入居者の加齢と共に要介護度や認知症が進行することは否めない。これをどう察知し対応をとるかが課題である。これには病院、「櫻」、ご家族の連携が大切である。

入居者の症状は入居時から日々変化をしている。施設からは其の状況を正しくタイムリーに伝え、ご家族は面会等でご本人の変化を確認し、必要な受診等に結びつけ安心して過ごせるようにし、施設も預けて安心といわれる介護技術等のスキルアップに努めていかなければならない。即ちスピード感のある教育指導がウエイトを占めることになる。

相互の連携協力を図ることは感染症に例をとれば、早目の対応、感染症になりえない対応（手洗い、嗽、消毒等）を皆で注意し協力することである。

これから益々重度化の難しい介護が強いられる中、医療連携体制の充実を図り、地域に開かれた当施設で安心して生活が出来るように努めて生きたい。

※ 以上、概要を記述し他は割愛する。

(2) その他

懇談形式で意見交換等を実施、主な内容は以下のとおり。

- : 外部評価の訪問調査が1月16日（水）無事終了、評価結果については次回運営推進会議で報告したい。（事務長）
- : 民生委員の栃本文江様が今回で退任するに当たり管理者からその労を多とし感謝の意を表し栃本委員からそれに対する挨拶が行われた。
- : 「櫻」は逗葉地区グループホーム連絡会の幹事施設として26年3月まで其の役を引き受け、今月11日に会合を開きました。

各施設の情報交換、スタッフの相互研修など施設のスキルを高めるため活動をしています。

- : 地域包括支援センターから空き室対策で前回同様の発言があった。
- Q グループホームも必要なときに必要な期間受け入れるショートステイの利用が認められれば、在宅介護の方でも希望される方が居られるが、受け入れは可能か。
- A 施設側としては希望者（入居者）の状態にもよるが、短期間でも入居・退居の名目であれば受入は可能であるが、それには必要な手続きが必要になる。地域に貢献する施設としては常に1～2部屋をそのために空けて置く事は望ましいが、運用面でかなりのリスクを覚悟しなければならない。施設としてはボランティア精神で運営は出来ないので2の足を踏んでいる状況である。リスクに見合った補助があるか、長期間の空室をショートステイ利用者の全額自己負担で補うかのいずれかに的が絞られれば話は変わります。
- Q 地域との繋がりを図りたいが具体策は。施設としては青木病院と協同

できる状態にある。健康相談、健康教室、入居(入院)相談等気兼ねなくお出で頂きたいと思っている。

A 葉桜自治会の活動の一環として取り組んでみたい。

※ 以上のほか誤嚥予防の話題など出されたが割愛する。

3 閉会の辞

議案等の終了を見届け予定時刻前ではあったが、管理者は各委員に対し次回の開催を確認（25年4月30日 火曜日）すると共に、本日の出席を謝し閉会を宣した。